



御幸祭り
(120cm x 85cm)

人物紹介

岩木川にまつわる著名な方々についてパネルに取りまとめであります。



大久保清長

本籍地は三重県亀山市で、明治40年東大を卒業、内務省に奉職されました。

同40年から十三湖一帯の調査のため派遣され、さらに44年から岩木川全川の調査に携わり、その結果について、大正6年「岩木川改修計画書」を作成しました。

この計画書は、同年の盛岡県会に提出され、翌7年3月工費700万円、10ヶ年継続として県直轄の事業開始となったのです。

同年12月、岩木川改修事務所開設と同時に初代所長として兼任し、昭和4年3月退職まで12年間始終一貫岩木川改修工事の第一線を担当しました。

大久保清長
(52cm x 37cm)



川村善八

弘前藩士で温厚篤実、才学に富み、明治13年、20余歳で西津軽郡書記となり、西・北両郡戸長の職務書及び両郡長の副申を書き、やがて内務省測量工師のオランダ人ローエンホルスト・ムルデンの測量調査となりました。明治37年から大正15年まで五所川原農学校で教職をとりましたが、同40年以後毎年、建議書、陳情書を書き、その他の調査書等を添附するなど、岩木川改修促進の後の功労者でした。

川村善八
(52cm x 37cm)



工藤行幹

天保12年(1841)弘前生まれ。

明治10年から同18年まで北津軽郡長、同19年から同21年まで西北両津軽郡長を兼任しました。同23年、第1回の衆議院議員に当選。以来、同37年4月死去するまで連続当選しました。自宅居間に岩木川地帯の大地図を掛けて西北津軽郡の治水解決を念願し努力しました。その結果、全国で20河川が、東北では北正川、最上川、最上川、岩木川が改修されることになりました。

工藤行幹
(52cm x 37cm)



小野忠造

安政2年(1855)北津軽郡三好村(現五所川原市)生まれ。

氏の生まれた所は、岩木川と旧十川にはさまれた袋地で、津軽平野の中で最も水害の多い所でした。幼いころから、洪水によって家や田畑を失った農民生活の悲惨さに接し、「津軽の人々の幸福は岩木川の治水なり」の信念のもと、私費をもって五所川原乾槽から十三湖まで調査し、また、奥平西・中・南・北の両津軽郡の山々を踏破して水源地を探り、岩木川一帯の地図と調査書を作成して工藤行幹代議士及び県・内務省(現在の建設省)に提出して治水の促進を図りました。さらに、滝川地区に堤防を築くなど、その生涯を岩木川治水にかけた人です。

小野忠造
(52cm x 37cm)